

《学年の窓》

1年生について

1年1組担任 村上 尚子
1年2組担任 鹿島 直子
1年3組担任 松永 美香

かわいい1年生が登校してきました。毎朝、しっかりマスクを着けて登校し、廊下で健康観察をすることにも慣れてきて、朝の支度もだんだん早くなってきました。

授業では、自宅学習中に課題とした「ひらがな」や「数」の復習を行っています。静かに「ひらがな」を書いたり、元気に発言したり、一生懸命取り組んでいます。

休み時間は、「だるまさんがころんだ」や「鬼ごっこ」で汗をかくほど仲よく元気に遊んでいます。クラスの友達の名前も覚え、「〇〇ちゃんと友達になったよ」と報告に来てくれる子もいました。

給食では、「野菜が苦手・・・」「全部食べ切れるかな」と心配していた子も「おいしいから、全部食べられたよ！」とにこにこ笑顔で話していました。

7月からは、全員がそろいます。6月に覚えたソーシャルディスタンスに気を付けながら、子供たちが安心して過ごせるよう指導して参ります。



《保健室より》

子供の笑顔が元気につながる

主任養護教諭 下里 彩香

約3か月ぶりに子供たちの笑顔が学校に戻って来ました。休校中の学校は、子供の姿が見えず、声も響かず、とても寂しくて無機質なものでした。登校が始まり、元気に校庭で遊びまわる姿を見ると、自然とこちらまで笑顔になり元気をもらえます。とはいえ、新型コロナウイルス感染症に対しては、長期的な対応をしていく必要があります。イメージや感情に左右されることなく、「正しい知識・情報に基づき、冷静に向き合うこと」「できることをしっかり実行していくこと」が大切だと考えています。

6月中に全校の発育測定を行いました。発育測定では、「体と心の学習」も行っています。全学年で、飛沫感染・接触感染を防ぐためにできることを説明し、低学年では「正しい手洗いの仕方を確認する」、中学年では「日常生活の中で細菌やウイルスが潜む場所を考える」、高学年では「熱中症を知って防ぐ」をテーマに学習を行いました。どのクラスも、真剣に話を聞き考える姿が見られました。

今後も、子供たちが安心・安全に学校生活を送ることができるよう保健室から見守ってまいります。ご家庭でも引き続き、朝晩の検温をはじめ、登校前の健康観察にご協力をお願いいたします。



通学路点検を終えて

通学路点検担当 高木 順一

本校では、児童の登下校時の安全確保を目的に、毎年、通学路点検を行っています。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策の一つとして、児童の登下校時や下校後の遊び場で児童が密集する場所がないかを視点に通学路点検を行いました。

職員で点検し、情報共有したときに、以下のような意見が出されました。

- ・横断歩道で信号待ちをする時に密集になりやすい。
- ・狭い道路を歩く時に密集になりやすい。
- ・公園で遊ぶ時に密集になりやすい。

これらを受けて、学校では児童に以下のような指導を行いました。

- ・横断歩道で信号待ちするときには、友達との距離を保つこと
- ・狭い道路を歩くときは、友達とくっつかないように気を付けること
- ・公園で遊ぶときは、友達と接触しないように気を付けること

児童の安全確保のため、ご家庭でも密集しない登下校の仕方を話題にいただければ幸いです。



《教科の窓》

体育・音楽指導について

体育主任 仁平 雄登

音楽専科 畠中 圭一

新型コロナウイルス感染防止のため、体育や音楽といった科目では、活動の制限があり、指導の仕方を工夫して学習を行っています。

体育では、一つのボールをみんなで共有するような活動ではなく、フラフープや新聞紙、短なわなどを使った個人で行うことができる体づくりの運動を行っています。また、器械運動で、鉄棒に取り組む際には、一つの鉄棒に一人ずつ行うことでソーシャルディスタンスを保ち、子供たちが安心して学習に取り組めるようにしています。6月になると例年、水泳学習を行っていましたが、今年度は実施することができません。今後も適宜状況を確認しながら、子供たちの健康を支えていくことができるように努めていきます。

音楽では、普段の授業で中心となる、みんなで歌ったりリコーダーや鍵盤ハーモニカの演奏をしたりする活動が、現在できない状況です。よって、それ以外の楽器演奏や鑑賞などを中心に授業で扱っていくわけですが、とりわけ6月中は、子供たちの基礎的な音楽能力を伸ばすことに焦点を当て、「リズム感」と「音感」の二つを育成するためのトレーニングを行いました。例えば、「リズム感」を伸ばすためには、手拍子を使ったリズム打ちの活動を行いました。これは、ドラムマシンのテンポに合わせ、様々なリズムパターンが書かれたリズムカードをレベル1～10まで順々にクリアしていく活動ですが、学年によって求められる能力が違ってきます。例えば、低学年は、書かれたリズム通りにクラスの友達と手拍子の音を揃えられれば合格ですが、高学年になると、手拍子の叩く音色にもこだわり、一人一人が響く音色でリズム打ちできないと合格にはなりません。子供たちは、拍の流れに乗って友達同士で心をつなげて意欲的に取り組んでいます。

このような活動の充実は、コロナ禍で授業の内容を見直していく中、生まれていったものです。いろいろな活動が制限され、大人にとっても子供にとっても辛く厳しい状況が続きますが、今だからこそできることや気付くことがたくさんあります。どのような状況でもよりよい方法を模索し、ピンチをチャンスに変えるつもりで日々指導に当たり、子供たちにもその心構えを伝えていきます。